

高校における不登校から再登校への過程についての研究

千葉 勝吾 （東京都立六本木高等学校）

1 はじめに

高校進学率 97%となる一方で、高校を中途退学する生徒や不登校になる生徒は、年間あわせて 10 万人を越えている。

高校にいかなくなる子どもが、もともと中学までの学習や経験で十分であると考え、高校から進路変更したのであれば、中学卒業者の社会への接続を保証するという問題となるが、そのような生徒の割合はごく小さい。

高校からの多くの中途退学者や不登校になった生徒の多くは、高校を卒業したいという意思を有しているにもかかわらず、高校に行かなくなるという状態に陥っている。

本研究では、学校に行かなくなった子どもがどのような過程を経て、再び高校に通いだしたり、編入学や再入学を果たして高校卒業に至ったかを主に質的な調査方法を用いてあきらかにしようとするものである。これまでの研究の多くは、不登校や中途退学に至るまでの研究と不登校の子どもや中途退学者に対

してどのようなケアが有効かを研究するといったものであるが、ここではその両者を接続させ一連の流れの中で捉え直しを図ろうとするものである。

2 研究対象及び研究方法

(1) 研究対象

研究対象は高校にいなかった経験（不登校、中途退学）を持つ者とし、再び高校に登校または編入学し、高校に在籍しているか卒業した者に対しての面接による聞き取り調査によりおこなった。

調査対象者の人数は約 40 名で、年齢は 17 才から 27 才までであり、居住地域はおもに首都圏都市部である。

(2) 調査項目と方法

面接調査による聞き取り項目は次の通りで、おもにフォーマルインタビューにより実施したが、一部はインフォーマルな形式によりおこなった。

表 1 不登校あるいは中途退学にいたった理由（概要）

	状態	意識	語り
1	中学卒業後、高校を未受験	受験したくなかった	○学校が嫌い、行く価値がない ○高校進学以外にやりたいことがある
		受験したかった	●親が受験させなかった ●中学校から就職をすすめられた ●長期間の療養
2	中学卒業後、高校受験不合格	合格すると思っていた	○準備不足や学校選択の誤り ●中学から大丈夫といわれていた
		不合格だと思っていた	○義理で受験した、受かる気なし ○試験や面接で失敗した
3	高校入学後不登校	登校したくない	○高校が嫌い、行く価値がない ○友人関係でトラブル ○学習についていけない
		登校したいができない	○高校が嫌い、行く価値がない ○友人関係でトラブル ○学習についていけない
4	高校中途退学	退学したかった	○高校が嫌い、行く価値がない ○高校以外にやりたいことがある
		退学したくなかった	●高校から退学処分や勧告された ●長期間の療養に

- ①不登校あるいは中途退学に至った理由
- ②高校にいかない間の生活や仕事について
- ③高校にいなかったときの意識
- ④高校に登校し出した理由やきっかけ
- ⑤高校生活についての意識

3 調査結果

予稿では結果の一部についての概要を報告することとし、表1は不登校あるいは中途退学にいたった理由をまとめたものである。

また、表2は高校に再びいけるようになった際の意識をまとめたものである。

(1) いけない理由といける理由

いけなくなった理由は多くの場合、明示的に語ることができるが、いけるようになった理由は、友人関係の改善をのぞけば、なんとなくとかとりあえずいったらいいという語りが多く、強い決意の結果というケースは多くはなかった。

(2) 高校卒業の資格

高校にいかなくてならない理由としては、高校卒業資格が最低限の学歴という意識が強い。さらに高校卒業後の進路希望が見つかった場合には、高卒が入学条件となるので高校卒業がより強く志向される。

(3) 低い高校への期待

一部のケースを除いて、高校に再び行くようになって、学校に対する期待度は低く、最低限のコストで卒業したいと考えている。

4 考察

インタビュー結果から、多くのケースで不登校や中途退学に至った理由に対して、その解消とはかるといよりは、ある種の折り合いをつけて、割り切った考え方で、再び高校に通うようになっている。

そのことから、第一にはそもそも高校を中途退学したり不登校になった、自らが語る理由は絶対的なものではなく、相対的ないわゆる気持ちの持ち方によって変わる可能性があること。第二にはそのため、なぜ再び高校にいけるようになったかについては、「なんとなく」とい気持ちをもっている者が少なくないことがあきらかになるとともに、第三に学校からの働きかけは、そのことが再び高校にいく直接的な動機付けになることは少ないものの、いってみようかという気持ちがわいてきた際に、学校にいくきっかけや理由にはなっているということがあきらかになった。

(詳細は発表当日配布いたします)

表2 高校に再びいけるようになった際の意識 (概要)

	状態	意識	語り
1	休みはあるが登校できるようになった	自分でいける気がしてきた	○いきたくない気持ちが減少 ○いってみようかと思った ○なんとなく楽しい ○バイトや遊びだけでは物足りない
		先生や親から登校を促されたから	○誘われていきやすかった ○だめになるまでいくつもり
2	ほとんど休みもなく登校するが、学校生活への関与は低い	高校卒業の資格が欲しいので	○高校卒業後やりたいことがある ○高校でないとばかにされる気がする
		勉強(授業)するのが目的だから	○人とかかわりたくない ○きちんと知識を身につけたい ○勉強についていくのが大変 ○学校外の生活が忙しい
3	ほとんど休みもなく登校し、学校行事や学校生活にも積極的に参加	完璧な高校生活をやってみたい	○やる以上はきちんとやりたい ○ちゃんとやれるか試したい ○まわりがそうだから
		学校が楽しくなった	○ふつうの高校生がしたい ○親しい友だちができて楽しい ○目標ができた
4	高校に編入学あるいは再入学し登校	目的をもって入学	○高校卒業後やりたいことができ ○期待に応えたい
		やりなおしで失敗したくない	○こんどやめたらばか ○もう年だから